

# 平成27年度 事業計画書

学校法人 文理学園

## 目 次

<b>【1】 学園の事業計画（概要）</b>	
1．学園の事業計画	・・・3
2．学園の教育環境整備	
(1)日本文理大学	・・・3
(2)日本文理大学附属高等学校	・・・3
(3)日本文理大学医療専門学校	・・・3
(4)NBU大分美容専門学校	・・・3
<b>【2】 設置校の事業計画</b>	
1．日本文理大学	
(1)中長期改善施策計画の推進	・・・4
(2)教育活動	・・・4
(3)研究活動	・・・6
(4)就職活動	・・・7
(5)広報・学生募集活動	・・・8
(6)その他	・・・8
2．日本文理大学附属高等学校	
(1)教育活動	・・・11
(2)広報・生徒募集活動	・・・12
(3)進学・就職活動	・・・14
3．日本文理大学医療専門学校	
(1)教育活動	・・・15
(2)学生生活	・・・17
(3)広報・学生募集活動	・・・17
(4)就職活動	・・・18
(5)その他	・・・18
4．NBU大分美容専門学校	
(1)教育活動	・・・19
(2)学生生活	・・・19
(3)就職活動	・・・20

## 平成27年度 事業計画書

学校法人文理学園は、「産学一致」の建学の精神に基づき地域社会との連携をこれまで以上に緊密なものとし、平成21年度よりスタートした中長期改善施策の目標未達成に伴い、第2期中長期改善施策の実現に向けて、教育環境の充実、堅固な財政基盤の確立を目標として、平成27年度事業計画を作成した。

### 【 1 】 学園の事業計画（概要）

#### 1. 学園の教育環境整備

学園の教育環境整備を以下のとおり計画する。

##### 【 共通検討事項 】

老朽施設・設備等改修及び建物耐震化対策  
省エネ推進計画

#### （ 1 ） 日 本 文 理 大 学

25号館「中央監視システム（RS盤）」更新計画  
情報メディア学科棟（4号館）シャッター整備工事  
第1体育館省エネ化工事  
教室系統熱源更新工事（年次計画）  
図書館書庫カビ対策空調機整備及び玄関増床、ゲート更新  
第1グラウンド（野球場）外野芝張替工事  
第3グラウンド（ソフトボール場）部室整備及び夜間照明等施設整備  
第1体育館裏倉庫建設

#### （ 2 ） 日本文理大学附属高等学校

校舎耐震化改築事業  
野口寮耐震診断

#### （ 3 ） 日本文理大学医療専門学校

建物耐震診断

#### （ 4 ） N B U 大分美容専門学校

特になし

## 【2】設置校の事業計画

### 1. 日本文理大学

#### (1) 中長期改善施策計画の推進

学長室を中心に昨年度「第2期中長期改善施策」を策定し、理事会の承認を得た後、平成27年3月30日に全教職員に対する説明会を実施した。本年度は、年度別アクションプランを着実に実施していく。

#### (2) 教育活動

##### 教育課程の改善

- 1) 各学科・専攻目標達成のための科目精査と各コア科目の再設定
    - (a) ポリシーに則ったカリキュラムチェック
    - (b) 地域志向科目を中心としたカリキュラム編成
    - (c) 学修サイクル（体験＋知識習得＋課題解決学修）の確立
    - (d) CAP 上限の見直し
    - (e) 文理協働型・学科横断型・専攻横断型プロジェクトの設定
  - 2) 地域課題を題材とした卒業研究、ゼミナール改革
    - (a) 融合した研究テーマ、複合テーマの研究ゼミナールの実施
    - (b) 中間発表会等の実施
  - 3) 教養基礎科目の再編成
    - (a) 教養基礎科目の科目精査案の作成
  - 4) 学生に応じたカリキュラムの検討（強化スポーツ学生、S クラス、外国人留学生、地域創生人育成入試）
    - (a) 対象学生用カリキュラムの策定
    - (b) クラス分けの検討
- 教育方法の改善・教育力の向上
- 1) 学修意欲（動機）、能力、機会を向上させる教育手法の確立
    - (a) 全科目 効果的な教育手法の検討
    - (b) アクティブラーニング授業の推進の検討
    - (c) ICT 活用授業の推進の検討
    - (d) 全科目シラバス整備
    - (e) 全科目学修教材の整備（予習・復習のための資料含む）
    - (f) 上記課題解決をするためのFD研修会の実施
  - 2) リメディアル教育／英語教育／外国人留学生の日本語教育の強化
    - (a) 効果的な入学前教育の立案（反転授業等の検討含む）
    - (b) 基礎学力講座（国語・数学）教育法の検討
    - (c) 英語教育法の検討
    - (d) 外国人留学生の日本語教育の強化
  - 3) 学科専門教育科目 資格試験合格者の輩出

- (a) 各学科 資格試験合格者目標数の設定
- (b) 資格試験合格者サポート体制の確立
- 4) 副専攻制度の運用と実績づくり
  - (a) 副専攻制度学内周知方法・登録勸奨の検討
  - (b) 副専攻制度の証明書等の事務手続き体制の確立
  - (c) 実施体制・制度運営体制の確立
  - (d) 海外研修に伴う諸マニュアルの整備
  - (e) 海外語学研修先の拡大
  - (f) 成果評価システムの構築
- 地域創生人育成のための評価手法の確立
- 1) 地域創生人育成のための評価手法の確立
  - (a) ルーブリック評価手法の確立
  - (b) nEQ、PROGを含んだ評価手法の検討
- 2) 達成度評価の検討
  - (a) 学部・学科別到達度の検討
  - (b) 到達度評価手法の検討
- 学生支援機能の充実
- 1) 退学者・休学率の逡減
  - (a) 支援体制・方法の検討
  - (b) 年度目標の設定
  - (c) 要支援者サポート体制の充実
  - (d) 要支援者サポート施設・設備の充実
  - (e) PDCAサイクルに基づく支援体制の確立
- 2) 留年率の逡減
  - (a) 支援体制・方法の検討
  - (b) 年度目標の設定
- 3) 正課外カリキュラムの体系化と評価の確立
  - (a) 大分チャレンジアワード支援体制・年間計画書の作成
  - (b) 正課外学習活動満足度調査の実施
- 4) 学習環境（施設・設備）の整備・運用方法の検討
  - (a) アクティブラーニング室の管理・運用方法の再検討
  - (b) ラーニングコモンズの活用方法の再検討
  - (c) 可動教室の整備計画と活用率の向上
  - (d) PC 教室の整備計画
  - (e) エンジニアリングリサーチセンター（ERC）の整備計画と活用方法
  - (f) 図書館の利用率の向上
- 5) 部活動・サークル活動の活性化
  - (a) 支援体制・活性化方策の検討
  - (b) 学生募集策と連動したサークルのあり方の検討
  - (c) PDCA サイクルに基づく支援体制の確立

- 6) 奨学生制度の見直しと新たな活用方法の検討
  - (a) 奨学生制度の見直し
  - (b) 活用方法の検討
- 7) 学修ポートフォリオの運用方法の確立
  - (a) 運用方法の検討
- 8) TA、SAの活用方法の検討
  - (a) 実施・運用方法の検討
- 9) 外国人留学生の支援体制の検討
  - (a) 外国人留学生の支援体制の検討
  - (b) 外国人留学生危機管理体制の充実
  - その他
- 1) 外国人留学生の支援体制の検討
  - (a) 外国人留学生の支援体制の検討
  - (b) 外国人留学生危機管理体制の充実

### (3) 研究活動

- 地域課題の解決及び直接還元できる組織作り
- 1) 産学官民連携推進センターの機能強化
  - (a) センター業務の見直し
  - (b) 体制の整備
- 2) 学内研究機関の機能強化
  - (a) 環境科学研究所 年間計画書作成
  - (b) 太平洋地域研究所 年間計画書作成
  - (c) マイクロ流体技術研究所 年間計画書作成
  - (d) エンジニアリングリサーチセンター(ERC) 年間計画書作成
- 3) 地域課題ニーズの効率的な収集と学内情報共有
  - (a) 運用方法の検討
- 4) 大学シーズの効率的な収集・情報発信・マッチング
  - (a) 運用方法の検討
- 学内公募による地域ニーズに関する複数教員によるプロジェクト型研究の促進
- 1) 地域との共同研究の実施
  - (a) 学外機関との共同体制の確立
  - (b) 共同研究テーマの設定
  - (c) 共同研究の実施計画の作成、実施
  - (d) 成果報告書の作成と報告会の開催
- 学外研究資金の積極的な獲得
- 1) 科学研究費補助金の申請と獲得
  - (a) 申請件数の増加のための方策の検討
  - (b) 獲得件数の増加のための方策の検討
- 2) 助成金の獲得

- (a) 獲得件数の増加のための方策の検討
- 3) 共同研究、受託研究の増加
  - (a) 共同研究数の増加のための方策の検討
  - (b) 受託研究数の増加のための方策の検討
    - 知的財産権管理の適正化と研究倫理の確立
- 1) 知的財産権管理の適正化
  - (a) 管理体制の整備
- 2) 研究倫理の確立
  - (b) 体制の整備

#### (4) 就職活動

- 実就職率の向上
  - 1) 内定先の目標設定と内定までの進路希望別プログラムの策定
    - (a) 内定先企業の設定(目標企業)
    - (b) 進路希望別就職プログラムの策定
    - (c) 進路希望別資格講座の検討、開講
  - 就職サポート体制の確立
    - 1) 就職支援体制の再構築
      - (a) 就職サポート満足度調査の実施
      - (b) サポート体制・計画の策定(人員計画の策定も含む)
      - (c) 地元就職のミスマッチの解消
    - 2) キャリア教育と就職支援体制の接続の見直し
      - (a) インターンシップの充実
      - (b) 正課科目と就職プログラムの連携
- 公務員合格者の輩出
  - 1) 公務員講座の再構築
    - (a) 公務員講座の見直し
    - (b) 上級公務員の輩出計画
    - (c) 初級公務員の輩出計画
    - (d) 学内指導体制の検討
  - 教員採用試験合格者の輩出
    - 1) 教員採用試験講座の実施・教員採用試験受験者比の向上
      - (a) 教員採用試験講座導入の検討
      - (b) 教職関連公務員試験合格者の輩出
      - (c) 学内指導体制の確立
- 離職率の低下
  - 1) 離職率低下に向けての取り組みの実施
    - (a) 調査方法の検討と実施
    - (b) 調査分析
    - (c) 離職率低下の方策の検討

(5) 広報・学生募集活動

メディア計画の策定

1) メディア計画の再構築

(a) 各メディアに対する媒体計画の策定(目標設定)

地域への広報方策の検討

1) 地域に対する広報方策の策定・実施

(a) 地域別広報方策の検討

(b) 危機管理広報のあり方検討

学外向けの学生活動報告会等の計画と運用

1) 学外向けの学生活動報告会の定例化

(a) 年間計画の策定、実施

高大連携教育プログラムの提供

1) 高校生版チャレンジアワードの実施

(a) 運用計画の策定

(b) 実施体制の構築と実施

(c) 附属高校との連携体制の構築(飛び級進学の検討)

生涯学習機会の提供

1) 行政と連携した県民参画講座の開講

(a) 運用計画の策定、実施

2) 地域向け公開講座7講座

(a) 運用計画の策定、実施

卒業生への情報発信

1) 卒業生への情報提供

(a) 情報発信方策の検討、実施

(b) 情報発信のシステム化

学生募集(高校生、高校生保護者、高校教員)への情報発信の強化

1) 効果的な情報発信の実施

(a) ホームページ再構築による各ステークホルダーに対する情報発信

創立50周年事業の実施

1) 創立50周年事業の成功

(a) 事業計画の策定

(b) 年間スケジュールの策定

(c) メディア戦略の策定

(6) その他

大学執行部体制の検討

1) ガバナンス体制の再検討

(a) 大学ガバナンス体制の総点検・見直し

(b) 執行部体制の検討



- 2) 決裁システムの見直し
  - (a) 迅速な決裁システムの検討  
教員評価制度の見直し
- 1) 業務総量の抑制、業務分担の適正化
  - (a) 役職者の業務量の見直し
  - (b) 目標管理制度の導入検討  
教員人事計画の策定
- 1) 教員人事計画の策定
  - (a) 教育が必要で不足する分野の洗い出し
  - (b) 教員年齢構成の適正化
  - (c) 新規募集教員の募集方法の改善
  - (d) 限定勤務教員の活用方法の検討
  - (e) 非常勤講師の活用計画の策定  
大学運営を支援する事務体制の整備
- 1) COC体制の整備
  - (a) COCスケジュール作成
  - (b) 業務整理
- 2) 調査分析機能(IR)の整備
  - (a) IR業務計画の策定  
大学職員人事制度改革と人材育成
- 1) 目標管理制度の導入
  - (a) 各部署課題の整理
  - (b) 目標管理シートの作成
  - (c) 人事評価と目標管理制度のリンク
- 2) 部署の統廃合と適正配置
  - (a) 各部署適正配置人数案の作成
  - (b) 部署統廃合案の検討、作成  
保護者・卒業生との連携強化
- 1) 大学校友会のビジョンとその運用体制
  - (a) 校友会ビジョンの作成
  - (b) 運用体制の整備
  - (c) 年間計画書の作成
- 2) 保護者満足度の向上
  - (a) 各部署保護者満足度向上のための課題の洗い出し
  - (b) 年間計画の作成
  - (c) 保護者満足度調査の実施  
危機管理体制の整備
- 1) 危機管理マニュアルの作成と実行
  - (a) 他大学状況調査
  - (b) 各部署危機管理の見直し

- (c) 各部署のとりまとめ
- (d) 危機管理マニュアルの作成
- (e) 大規模災害時の危機管理体制の構築
  - 入学者の質を重視した入試戦略の構築
  - 1) 志願者数の新たな目標設定と安定化
    - (a) 学生募集目標の設定(地域・入試区分などの視点から作成)
    - (b) 入試結果の分析
  - 2) CDP(キャリア・デベロップメント・プログラム)による入学者の学力と意欲の確保
    - (a) CDPプログラムと入試との接続
    - (b) 入試計画
    - (c) ターゲット校の明確化
      - 収支均衡の実現
  - 1) 収入の増加策の検討
    - (a) 学納金の増加
    - (b) 補助金、寄付金の増加
    - (c) 履修証明制度実施の可能性の検討
  - 2) 業務経費の削減案の検討
    - (a) 設備計画
    - (b) 大学バス等運行経費
    - (c) 施設維持管理経費等
    - (d) 年削減率の検討
  - 3) 大学予算編成の見直し
    - (a) シーリングの実施
    - (b) メリハリのある予算編成
    - (c) 年次目標達成に必要な特別予算の編成
- その他
  - 1) 教育研究に必要な施設・設備の再検討
    - (a) 必要な計画の洗い出し、計画の策定
    - (b) 建物の耐震対策の検討

## 2. 日本文理大学附属高等学校

### (1) 教育活動

#### 教務部門

- (a) 学年毎に朝学習、補習等に取り組み、基礎学力の向上を図る。
- (b) 欠席が多い生徒(不登校傾向の生徒)に対して、夏季休業中に学校への登校を促し、補充授業を実施することで、2学期以降に向けての学習の取り組みや生活の改善等の意識付けを行う。
- (c) 「わかる授業の実践」を行うため、教員に対する研修機会の提供や各教科での工夫をサポートし、教員の技術・指導力の向上を図る。

#### 生徒指導部門

##### 1) 基本的な生活習慣の確立の取り組み

- (a) 挨拶運動(挨拶10か条)の啓発活動を実施し、校内外に関わらず立ち止まって、気持ちの良い挨拶ができる生徒の育成に努める。
- (b) 身だしなみ(頭髪、制服の着こなしなど)の指導を徹底するため、イエローカード制度を用いて、違反した生徒の保護者への指導協力を求める。
- (c) 時間厳守の指導の徹底。遅刻者をデータ管理し、時間を守る意識の定着を図る。
- (d) 清掃活動の啓発活動を実施し、個々の生徒の品格の醸成に努める。

##### 2) 交通事故防止・マナー

- (a) 道路交通法遵守の広報活動と指導。
- (b) 長期休暇前後に、自転車の点検を実施する。
- (c) 自転車事故に遭った時の対処方法の指導の徹底。
- (d) 自転車通学生だけでなく、全校生徒対象に交通安全教室を実施する。
- (e) 自転車防犯登録推進と施錠(ツーロック)の徹底。
- (f) 置き引き対策など防犯意識の高揚を図る。

##### 3) その他

- (a) 学習活動に不要な物品(携帯電話・スマートフォン)の校内持込禁止の徹底。
- (b) 携帯電話・スマートフォン利用上のマナーや個人情報上のトラブル防止についての学習活動を実施する。とりわけSNSについては、その問題点を教員が学び、生徒に情報モラルの意識を広げる活動を具体的に展開する。
- (c) いじめ防止についてのLHR及び学期に1回のアンケート実施により、些細な事も見逃さず、トラブルを未然に防ぐよう早期発見に努める。

#### 特別活動部門

##### 1) 部活動の強化

- (a) レスリング部をはじめ、駅伝競走部や硬式野球部など九州大会や全国大会レベルで戦えるチーム・選手の育成。また日本文理大学との合同練習や施設活用などの実施や、スタッフ派遣による指導等の学園内連携を深めると同時に、学園内進学率の向上に努める。

- 2) 生徒募集
  - (a) 菅奨学生枠の有効活用により、各強化部とも今年度入学生以上の部員獲得に努める。
- 3) 学校行事
  - (a) 学校活性化に向けた行事の企画・立案及び実施。また、地域と学校の連携強化に努める。
  - (b) 報道機関の有効活用やホームページ掲載内容の充実により、地域の内外を問わず、積極的な広報アピール活動を実施する。

特別進学コース部門

- 1) 特別進学コースの生徒の学力向上・進学実績向上
  - (a) 0限目課題の作成・添削指導の実施。
  - (b) 補習(夏季・冬季・春季休業中、8限目、土曜日<月2回程度>)の実施。
  - (c) 対外模試を実施後、校内反省会及び進学審査会を年4回開催する。
  - (d) 生徒対象及び保護者対象進学講演会の実施。
  - (e) 特進夏季学習合宿(全学年)の実施。
  - (f) 海外語学研修をオーストラリア(ブリスベン)で実施。
  - (g) 英語検定など検定の取り組みを強化。
  - (h) 19時までの放課後学習(希望者)の実施。
  - (i) 3年生の夏季、冬季に自学自習による学習のための登校日の設定。

進学コース部門

- 1) 生徒の学力向上及び進路保障
  - (a) 0限目課題の作成及び添削指導の実施。
  - (b) 補習(夏季補習等)の実施。
  - (c) 対外模試実施後、校内反省会や分析会を開き、生徒へフィードバックを図る。
  - (d) 生徒対象進路講演会の実施。
  - (e) 各種検定など資格取得の奨励及び対策
  - (f) 進学ガイダンス等への参加
  - (g) 「総合的な学習の時間」を利用した進路学習の実施。
  - (h) 進路学習における出前授業の実施。

(2) 広報・生徒募集活動

特別進学コース・進学コース部門

- 1) 生徒募集対策
    - (a) 中学生対象土曜セミナーを年間6回実施し、生徒募集の糸口とする。
- 中高連絡・生徒募集部門
- 1) 定員確保を実現させるための生徒募集の早期化
    - (a) 卒業生・在校生の関係者への勧誘  
本校卒業生・在校生の子息弟妹等については入学率が高く、勧誘もしやすいことから、確実に入学させるために情報を早期に集めて計画的に募集につなげる。

在校生の弟妹(中学3年生)の調査を4月に行う。各クラス担任は家庭訪問等を利用して対象者の情報収集を進める。データ化した情報を募集担当・コース主任・部活動顧問等で共有する。

卒業生の子息弟妹等の勧誘については、情報を持っている職員が中高連絡委員にその都度連絡し、連絡委員は必要な部署に情報提供するなど活用していく。

それらの情報をオープンスクール勧誘、部活動勧誘、学校説明会勧誘などに利用することで、例年より早い段階で対象を絞った募集を行う。

(b) オープンスクール参加者名簿の活用

本校オープンスクールの参加者名簿を元に、在校生全員から聞き取りを行って情報を集める。ケースによっては在校生や在校生保護者にも協力してもらい、部活動勧誘や各種説明会勧誘など進めていく。

(c) 中学3年生対象模擬試験の実施

昨年度より高校入試が大幅に見直されたことから、新制度対応の入試に慣れてもらおうといった趣旨で夏に本校主催で3教科程度の模試を実施することにより、受験生の情報が収集でき、それを元に生徒募集を早める。

2) オープンスクールの複数開催

- (a) 例年本校オープンスクールの開催時期に中体連等の九州大会・全国大会などが開催され、一部の中学生が参加できないことがあった。また、大規模校を中心に、進路指導の遅れからオープンスクールへの参加率が低い中学校もあるため、夏の終わりをめどに、本校在校生を中心とした企画内容で後期のオープンスクールを実施し、未参加者(病欠欠席等含む)や2度目の参加者を募ることで、募集強化につなげる。

3) 佐伯市以外の募集強化

(a) スクールバス路線の中学校への募集

スクールバス対象中学校ごとの配布資料を作成し、1学期より広報を徹底し、まずはオープンスクールへの勧誘に力を入れる。対象中学校にはオープンスクール用のバスも運行する。(本年度は延岡の開拓に取り組む)

(b) 本校推薦入試用バスの運行

以前実施されていた大分市内の私立高校推薦入試用のバスが、各地区とも最近はされていない。推薦入試から受験生のためのバスを運行することで、他の私立高校と競合になっている地区(豊後大野市、臼杵市、津久見市)を中心に受験者数(=募集対象人数)を増やす効果が期待できる。

4) その他の改善点

(a) 高専受験生への優遇

高等専門学校に挑戦して不合格になる生徒は高学力で本校特進コースの学力奨学生の対象になる可能性があることから、本校各種奨学生手続締切日を高専合格発表後に設定し、本校特進コースへの奨学生での入学を勧める。

(b) 専門コースの土曜セミナー実施(各科・コースで検討)

現在特進コースで行っている中学3年生対象の土曜セミナー(8月～9月に実

施)を他のコースでも実施してそのコースの内容に興味を持たせ募集につなげる。

(3) 進学・就職活動

活動目標

- (a) 進路指導部と各学年団の連携を深める。
- (b) 進路指導の3カ年計画の確立(キャリア教育の充実)
- (c) 進路情報収集及び進路開拓と学年団への情報の提供

就職指導

- (a) 就職内定率100%の達成
- (b) 新規及び求人停止中の企業開拓

進学指導

- (a) 文理学園7年間教育構想に基づく系列校との連携の強化。
- (b) 文理学園7年間教育の実践による系列校への進学者数の増加。

### 3. 日本文理大学医療専門学校

#### (1) 教育活動

##### 診療放射線学科

##### 1) 個別指導

- (a) 3年生には、基礎的な内容の小テストを授業開始前に実施し基礎学力の向上を図る。また、進行表を作成し到達度の把握を徹底する。
- (b) 定期的実施する模擬試験の成績不良者に対しては、不得意科目や理解度の低い原因を探ったうえで居残り学習を義務付け早期の学力向上を図る。指導に当たっては「解く・調べる・聞く」を中心にした学習を徹底する。
- (c) 総合的に基礎学力を向上させるため、不得意科目の克服を目的に、授業時間外の学生指導を徹底する。

##### 2) 国家試験合格率100%を目標にした、以下の支援体制を強化

- (a) 夏季休業中に3年生を対象とした国家試験対策講座を開講する。
- (b) 国家試験対策の一貫として勉強合宿を9月に実施する。
- (c) 3年生には、国家試験対策として年7回の模擬試験を実施し、不得意科目の克服に向けた指導を徹底する。また、出題傾向の偏りを防ぐために企業による有料模試を導入する。更に学内模試の難易度レベルを統一させ、学生個々の到達度を把握した上で成績不振者の指導を実施する。
- (d) 予定された全講義が終了したのち、国家試験まで国家試験直前対策講座を開講する。
- (e) 国家試験月には土・日の学校開放を実施し学習指導を行う。
- (f) 3年生の学習報告書については、国家試験関連の内容の課題提出とする。
- (g) 3年生に対し5限目を開講しグループ学習を実施する。
- (h) 模擬試験の成績不良者に対し、土曜日を利用した学習指導を実施する。

##### 3) 関連資格の取得

- (a) 診療放射線技師資格とは別に、第1種及び第2種放射線取扱主任者の資格取得を目指し、放課後及び夏季休業中に特別対策講座を開講し学習の習慣づけを徹底する。また、第2種放射線取扱主任者資格の全員取得を目指すことで、最終目的である国家試験合格に向けた学習意欲の向上を図る。

##### 4) その他

- (a) 国家試験不合格者に対する支援策として、聴講生制度を利用させ不得意科目の解消と全体的な学力向上を図り、国家試験合格のための指導を徹底する。

##### 臨床検査学科

##### 1) 個別指導

- (a) 学科の全生徒に対する情報共有を、学科教員と常に行う。指導や助言等必要な場合は、担任と副担任が連携して、問題解決に取り組む。
- (b) 学習習慣の不十分な学生に対し、定期試験後の集中フォローを行うなどして、学力不足による退学者の減少に取り組む。さらには不得意科目の克服を目的

- に、希望者全員には放課後の学習指導やグループ学習を徹底する。
- (c) 定期試験の成績不良者または生活態度の改善が必要な学生は、保護者とも連携をとり指導を行う。必要に応じて保護者面談も実施する。
- 2) 現役生の国家試験合格率100%達成を目標に、支援体制を強化
- (a) 模擬試験目標未達の場合には居残り学習を強制し、教員からの個別指導や補講を受ける体制を強化する。
  - (b) 年8回の外部団体主催の模擬試験に挑戦し、弱点克服のために徹底指導を行う。
  - (c) 2月以降、国家試験直前講座を土日にも開講する。
  - (d) グループ学習を導入し、他の学生の学習方法を通じて、自身の学習方法を確立し、さらにはグループ全体で合格する目標を持たせる。
- 3) 関連資格の取得
- (a) 2年生以上には、第2種ME技術実力検定試験に挑戦させ、卒業時までの全員資格取得を目指す。
  - (b) 対策として、特別対策講座を4月から7月の土曜日に開講し、更に8月中旬から試験直前までも同様の特別講座を設け、徹底指導する。
- 4) その他
- (a) 意欲的な学習姿勢を持続させるため、医療現場への見学を実施し、将来像確立を目指す。
  - (b) 出身地実習を継続するために、計画的に大分県外の病院開拓を行う。
  - (c) 実習施設との連携を深めるための意見交換会を開催し、より充実した実習が行える環境をつくる。
  - (d) 実習機器の経年劣化による修理を随時実施し、対応がとれない物品については計画的な予算獲得と新規購入を実施する。

#### 臨床工学科

- 1) 個別指導
- (a) 希望者に対して授業時間外での学生指導を行い、学力の向上、不得意科目の克服を図る。
  - (b) 成績不良者や生活態度等に問題のある学生には、個別面談を実施するとともに、保護者とも連携を図り状況の改善に努める。
- 2) 国家試験合格率100%を継続することを目標に、学生への支援体制を強化。
- (a) 模擬試験を年9回実施し、学力の向上および不得意科目の克服を図る。
  - (b) 模擬試験の成績不良者には居残り学習を義務付けるとともに、個別指導を行い、成績の改善に努める。
  - (c) 講義時間以外にも国家試験対策講座を実施し、学力向上に向けた指導を強化する。
- 3) 関連資格の取得
- (a) 2年生以上の学生に第2種ME技術実力検定試験の受験を義務化し、合格率100%を目標に、土曜日および夏季休業中に特別対策講座を開講する。



4) その他

- (a) 臨床工学技士の業務内容、医療現場の雰囲気を知ってもらうことを目的に、大分大学医学部附属病院の施設見学を実施する。
- (b) 実習施設との連携を密にし、より充実した臨床実習が行えるように臨床実習担当者会議を実施する。
- (c) 学生間での臨床実習内容の共有と、保護者への学生生活の報告を目的に臨床実習発表会及び保護者参観を実施する。
- (d) 学生の出身地での臨床実習実施のため、計画的に臨床実習病院を確保する。

(2) 学生生活

本校に入学してくる学生は、理系及び文系、実業系出身者が混在している。学生によっては初年次の授業の習得度が遅れ気味である。したがって、入学後しばらくは放課後等を利用し授業の進度に合わせて、成績の改善をするための手段を講じる。

SHRを毎日実施し、学生指導及び伝達事項の徹底を図る。

フレッシュマンセミナー等の学校行事を通じて、新入生と教員・在校生の相互交流を深める。

学生会からの要望（スポーツ大会等）を検討し、可能な範囲内でサポートしていく。

精神的な悩み・不安を持つ学生に対し、クラス担任が窓口になるが全教職員が対応にあたるとともに、日常的に学生の動向に注意を払う。また、学生相談室を週1回開設し、学生のカウンセリングにあたる。

学生には、担任による個別面談を随時実施し、日常生活の様子を確認するとともに、学業及び学校生活に悩みを抱えた学生への対応を強化する。また、問題のある学生には保護者と連携し三者面談を実施する。

「学習報告書」の提出を義務付けることで、予習と復習をする学習習慣を身に付けさせ、担当教員が内容を精査し、個別指導に活用する。

(3) 広報・学生募集活動

3学科合計で、新入生を160人獲得する為、入学試験出願者数250人以上の確保を目標にする。

体験型オープンキャンパスを6月・8月に合計3回実施する。

学校見学説明会を、定期的（土曜日）に12回実施する。

入試方法を見直し、受験者のさらなる獲得を目指す。

- (a) 指定校入試・第1回一般入試に加えて第3回一般入試でも沖縄会場を設定。

- (b) 沖縄県や鹿児島県の離島訪問を行い、受験生増を狙う。

ガイダンスでは県外・地方を意識し、過去の実績等を参考に参加高校生が多い会場を選定する。本校の特徴を積極的にPRすると共に、オープンキャンパス及び学校見学説明会への参加勧奨を行う。

ホームページ・SNSを活用し、受験生に必要な情報を提供する。

日本文理大学大学事務本部学生1部入試担当及び広報担当と連携を強化し、募集活動の効率化を行う。

学園祭等の行事にて医療専門学校をPRする場を設け、近隣の住民へアピールする。

高校からの施設見学を積極的に受入れる。

#### (4) 就職活動

相次ぐ競合校の設立により就職戦線の激化が現実となっている。他校との競争に勝利し、本校の学生を選んでいただくための支援活動を展開する。

医療技術の高度化に柔軟に対応し、医療現場で活躍できる質の高い医療従事者の育成を目的に進路セミナーを年間10回実施する。

学生数に応じた求人数を確保するため就職先の開拓を行い、各医療機関との連携強化を図り、「合同就職説明会」を開催し、多くの学生が施設側と直接に触れあえる機会を作る。

早期からの就職活動を促し、各学科とも年度内での就職内定率100%を目指す。各学科3年生担任を中心に就職支援活動として履歴書の添削、適性検査対策、面接指導を実施する。(学内一斉模擬面接の実施)

就職状況、求人情報等のデータ整理に努め、学生が自由に閲覧できるように掲示板をリニューアルし、わかりやすい情報提供を行い就職活動の支援を行う。

#### (5) その他

学校運営コンセプト

##### 1) 平成27年度の目標

- (a) 全学科、国家試験合格率100%を目指した教育の実践。
- (b) 定員充足率100%を目指した学生募集の展開。
- (c) 学生の就職活動の支援活動の推進。
- (d) 学生の学習意欲向上のための授業内容の改善。

##### 2) 各業務規程の遵守

円滑な学校運営及びハラスメントなき職場環境を達成するために、組織内の規程等の遵守を徹底する。

##### 3) 自己点検・自己評価の実施

外部評価受験へ向けた業務の見直しと自己評価の実施。

平成27年度重要業務予定

- 1) 業務拡大によるカリキュラム変更(平成28年度入学生より)
- 2) 校務システムの円滑な導入
- 3) 外部評価受験への準備

## 4 . NBU大分美容専門学校

### (1) 教育活動

教育目標を「美のプロフェッショナルとして未来を切り拓く人間力の育成を図る」と定め、学生の「夢見る力・挑戦する力・考える力・表現する力・感謝する力」を育成する。

また、教育方針を「基本的生活習慣の確立」「教養豊かな人間育成」「美容知識、技術の向上」とし、全人教育に努める。

- (a) 学生に美容師としていかに生きるかを常に意識させ、短期目標と長期目標を立てながら自らの夢に向かって今何をすべきかを考えさせる指導をする。  
(キャリアワーク、業界理解等)
- (b) 各種検定やコンテストで合格や上位入賞を目指して、学生が真摯に取り組む環境を作る。(アジアビューティーコンGRESS、全国理容美容学生技術大会等)
- (c) 学生自らが参画する諸行事で、美を表現することの喜びを知り、お互いの意見を尊重しながら一つのイベントを成功させることの難しさを体験する機会を提供する。(ビューティーフェスティバル等)
- (d) ボランティア活動を実施することで、地域の人々に感謝する心を育て、社会貢献することの大切さを学ぶ機会を提供する。(地域行事参加、近隣清掃等)
- (e) 各家庭、学生の出身校との密な連絡をとる。

美容師国家試験対策プロジェクトを立ち上げ、合格率100%を維持する中で、美容知識、技術の向上を図る。

- (a) 実技及び筆記の各試験指導教員の指導力の向上を図る。
- (b) 実技試験や筆記試験に対応した模擬試験を通じて弱点を発見し、個別に補習授業を実施し克服を図る。

業界との連携を強化する中で、外部講師として多くのサロン関係者を招いて講習を実施する。また現在市場が拡大している「まつ毛エクステンション」の授業を導入するなど、現場で求められていることを日々の指導の中に実践的に取り入れる。

工夫された指導方法により充実した授業を提供する。

本年度在学生在が2学年のみとなるため、学校の活気が喪失されることなく、生徒のモチベーションを高めるために、年間行事の設定や授業の工夫をする。

### (2) 学生生活

美容家の指針となる「NBU PRIDE」に基づき、挨拶・清掃・立ち居振る舞いなど基本的生活習慣の確立により、美容家に必要な資質を向上させ、「売れる美容家、10年後にはリーダーとなる人材」を育成する。

地域の方や各企業など外部との交流を図り、コミュニケーション能力の向上や地域貢献につながる学校行事を提供する。

(3) 就職活動

美容業界との繋がりをより緊密にする

- (a) 校内説明会等を通して、学生を評価してもらう機会をつくる。
- (b) 在校生からの興味が高いサロンや卒業生が従事しているサロンを訪問し、情報交換やフォローに努めることで早期退職を防止する。
- (c) サロン体験だけでなく、サロン実習を自主的に行うよう奨励し、ミスマッチのない内定に繋げる。

進路指導の一層の充実を図る。

- (a) 就職面談の回数を増やし、学生の個性や特性を十分に把握し、早期に方向性を定める。また、必要に応じて保護者との連絡や面談もその都度行い、理解と協力を得る。
- (b) 面接指導は実践型を重視し、自主性、自己アピール力を高める。